

2021年1月13日  
東北経済産業局

## 「会津本郷焼」地域団体商標に登録 ；東北地域の地域団体商標は56件に！

特許庁は、福島県会津美里町の「会津本郷焼」を地域団体商標に登録しました。全国で711件目の登録になります。東北地域においては56件目であり、福島県の地域団体商標としては10件目です。

### 1. 商標及び出願人

商標: 会津本郷焼(あいづほんごうやき)

出願人: 会津本郷焼事業協同組合(法人番号 5380005008005)  
福島県大沼郡会津美里町字川原町1823番地の1

### 2. その他福島県の地域団体商標

商標	登録番号	登録日	権利者
南郷トマト	第5015204号	2007年1月5日	会津よつば農業協同組合
土湯温泉	第5016614号	2007年1月12日	土湯温泉旅館事業協同組合
会津みそ	第5122652号	2008年3月28日	会津味噌協同組合
大堀相馬焼	第5295759号	2010年1月22日	大堀相馬焼協同組合
なみえ焼そば	第5934383号	2017年3月24日	浪江町商工会
会津田島アスパラ	第5963077号	2017年7月14日	会津よつば農業協同組合
会津山塩	第5984681号	2017年9月29日	会津山塩企業組合
奥会津金山赤カボチャ	第6034692号	2018年4月13日	金山町商工会
伊達のあんぼ柿	第6046830号	2018年5月25日	ふくしま未来農業協同組合

### 3. 地域団体商標について

地域団体商標制度とは、地域ブランドを適切に保護することにより、信用力の維持による競争力の強化と地域経済の活性化を支援することを目的に、地域の事業協同組合や農業協同組合等の「地名+商品(サービス)名」からなる商標について、特定の要件を満たした場合に登録を認める制度です。

### 4. 登録査定と登録について

登録査定の通知を受領した後、30日以内に登録料(28,200円/区分)を特許庁に納付することにより、商標権の設定登録が行われ、登録日から10年間効力が継続します(更新も可能)。

### 5. 地域団体商標に関する情報について

地域団体商標の活用事例、全国の地域団体商標は下記のホームページを御覧ください。

地域ブランドの保護は、地域団体商標制度で(特許庁ホームページ)

<https://www.jpo.go.jp/system/trademark/gaiyo/chidan/>

TOHOKU 地域ブランド(とうほく知的財産いいねっとホームページ)

<https://www.tohoku.meti.go.jp/chizai-enet/support/brand/showcase.html>

(本発表資料のお問合せ先)

東北経済産業局 地域経済部 産業技術課 知的財産室長 中島順也

担当者: 那須

電話: 022-221-4819(直通)

## 「会津本郷焼」について

1. 出願日:2020年1月14日(出願番号:商願2020-3631)
2. 登録日:2020年12月23日(登録番号:商標第6333681号)
3. 出願人:会津本郷焼事業協同組合
4. 指定商品及び区分:福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の食器類、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の土瓶、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製のはし置き、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製のナイフ置き・フォーク置き・スプーン置き、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製のおしぼり置き、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製のおたま置き、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の置物、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の花瓶、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の水盤、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の香炉、福島県大沼郡旧会津本郷町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の香合(21類)

### 5. 特長:

#### <歴史と伝統>

東北最古の窯場といわれる会津本郷焼の発祥は、1593年。会津若松城主・蒲生氏郷がお城の改修のために播磨国(兵庫県)から瓦工を招き、瓦を焼かせたのが始まりといわれています。はるか400年以上も前、安土桃山時代のことでした。

実際に本郷の地でやきものが焼かれ始めたのは、1645年。会津藩主・保科正之が招いた美濃国瀬戸出身の陶工・水野源左衛門が本郷村に原土を発見し、本格的に陶器製造を始めました。これが会津本郷焼の、陶器の起源です。

一方、磁器は、1800年までその登場を待ちます。本郷村で発見された大久保陶石で磁器を作ろうとした藩は、佐藤伊兵衛を有田に潜入させます。命がけで技術を習得した伊兵衛の帰国後、藩は備前式登窯を築きました。

会津藩は本郷に奉行所を置き、藩の産業として力を入れておりましたが、奉行所の廃止により職人たちに残土、工具が分け与えられ、職人たちはそれぞれの窯を築き、焼き物を作り始めました。それが窯元の始まりです。

#### <陶器と磁器>

会津本郷焼には、瓦焼の流れをくむ土物(陶器)と、大久保陶石を原料とした石物(磁器)があります。石を原料とした焼き物の産地としては、関東以北唯一です。会津本郷焼の全盛期には、大小合わせて100以上の窯元がありました。本郷の上り窯から煙が立ち上らぬ日はなかったといわれています。急須、土瓶、目皿、花器が有名ですが、特に急須については、明治末期に本郷の陶工が茶こしの部分を発明し、急須の出がよいことで日本一の折紙付になりました。9月16日、会津本郷では陶祖祭を行い、陶祖・水野源左衛門、磁祖・佐藤伊兵衛の2人をしのびます。命がけで守り継がれた本郷の陶器と磁器。陶祖祭にもその価値がうかがわれます。

